

## 地域に根ざした幼稚園の実践

— 呉あそか幼稚園を中心として —

渡 辺 一 弘

### 1. 問題の所在

本稿は、戦後地域の要請により開園し、その後約50年地域密着型の幼稚園としてオーソドックスな保育活動を展開してきた広島県呉市の呉あそか幼稚園の事例をとりあげ、その特質を検討することを目的とする。

我が国では1970年代後半の第二次ベビーブームを過ぎる頃から、出生率の低下の影響で、一部の人口増加地域を除いて、収容定員に満たない幼稚園や保育所が現れてきた。90年代に入ると、園児数の減少から経営困難に陥る私立幼稚園も増えてきている<sup>(1)</sup>。そうした状況のなかで、生き残りをかけて多くの幼稚園がさまざまな試みを行うようようになってきた。例えば、英語教育、漢字教育<sup>(2)</sup>、パソコンを用いた教育、乾布摩擦に代表される裸保育などの特色のある教育。さらに三歳児保育の拡充、預かり保育（居残り保育）などの保育時間の延長、給食の提供などである。この傾向は、筆者が現在居住している広島県東広島市（人口約12万人）においても同様で、市内の私立幼稚園6つの中で、英語教育を実施している園が2つ、文字・数の知能遊びを実施している園、マラソン・乾布摩擦を実施している園がそれぞれ1つずつ、預かり保育・居残り保育を実施している園は6つ全てであるという<sup>(3)</sup>。このような状況下で、現在も従来の比較的オーソドックスな保育実践を中心に行っているような幼稚園の現状はどのようなであろうか。

事例としてとりあげた広島県呉市の呉あそか幼稚園は、戦後地域の要請に応じて開園した仏教系の幼稚園である。特に目新しい試みや特別

な実践活動は行っていない、比較的オーソドックスな幼稚園ではあるが、開園以来、現在でも地元に住居する卒園生が保護者になってからも自分の子どもを入園させたがるような幼稚園で、園周辺が転勤族が多い地域<sup>(4)</sup>にも関わらず地域において支持されている幼稚園であるという。また地元のタウン誌などにも何度か記事が紹介され<sup>(5)</sup>、市営バスの運行コースに面したお寺の敷地内に立地しているという設置環境もあり、地元では比較的知られている幼稚園であるという。

従来、日本の地域における幼稚園の保育活動や実践の歴史などに関する研究は、明治期や大正期といった戦前期の状況を対象とする研究が主流のようである<sup>(6)</sup>。戦後開園した地域の幼稚園の、高度成長期を経て現在に至るまでの保育活動等を踏まえて検討したものは、大学等の附属幼稚園や特別な実践活動を行っている一部の幼稚園を除いて、あまりみられない。さらに先述のように、少子化による園児数の減少傾向が続く昨今、特にとりたてて目新しい試みや特別な実践活動を行っていないにもかかわらず、園児数を確保して、地域において支持されている幼稚園の特質を検討することは、保護者が望んでいる幼稚園とは何か、を考えるうえでの一つの指針を示すことができると考える。

そこで本稿では、この呉あそか幼稚園を事例にして、従来の比較的オーソドックスな保育活動を行ってきた幼稚園が、現在も地域において支持されている理由を、園の成立から現在までの活動状況を踏まえて、園の目的や基本方針が如何に実践活動や園の運営に反映されているかを検討することを目的とする。

## II. 事例研究の対象と方法

### (1) 対象—呉あそか幼稚園の概要

研究対象となる呉あそか幼稚園は、正式名称を「学校法人神応院学園呉あそか幼稚園」という。神応院は明治中期頃、広島市の己斐から呉市に移設された元々広島藩浅野家の7代目と9代目の曹洞宗系の寺である。いわゆる仏教系の幼稚園で、神応院の住職が幼稚園の園長も兼ね、現在は2代目の園長である。隣接地区も含めてこの地域に既に3つの幼稚園・保育所があったが、昭和29年に地域の強い要請で開園した。入園案内によると、「あそか」の名称は、紀元前3世紀にインドを統一し、仏教を理念に安定した社会実現に努力したアショカ王の名前に由来しているという。園の目的と基本方針は以下のとおりである。

#### 《目的》

教育基本法及び学校教育法に従い、更に仏教的情操を加味して幼児を保育し、適切な環境を与えて、その心身の豊かな発達を助長することを目的とする（下線は引用者、以下同様）。

#### 《基本方針》

- ・ 基本的な生活習慣が確立された子供の育成
- ・ 他を信じる心と、協調性のある子供の育成
- ・ 周りの自然環境に興味や関心のもてる子供の育成
- ・ 豊かな感性と創造力をもてる子供の育成
- ・ 健やかな身体と、健全な精神をもてる子供の育成

上記の目的と基本方針をもとに、集団生活と遊びを通してのびのびと元気で明るくをモットーにして、感動と思いやりのある個性豊かな子供に育てる努力をしている、とのことである。

現在の教職員数は、園長1名、教諭9名（内主任1名）、事務1名の計11名で全員が地元呉地域出身で園長を除いて全て女性である。教職員の平均年齢は、園長を除くと約25.6歳である。勤続年数は、20年目の主任を除くと新卒から7年目までで、ここ数年はほぼ毎年採用している

とのことである。

園児の募集人数は、3歳児—40名（園則定員50名）・4歳児—40名（同70名）・5歳児—若干名（同70名）の約80名強（園則定員190名）で、昨年度の全園児数は116名であった。また障害を持つ子供の入園にも配慮しているとのことである。

入園案内に示された園の沿革は、大体以下のようのものである。

#### 《沿革》

- |          |                           |
|----------|---------------------------|
| 昭和29年4月  | 地域の要請により創設                |
| 昭和30年4月  | 県に認可される                   |
| 昭和42年2月  | 園舎第1期工事完了、定員200名になる       |
| 昭和45年4月  | 園舎第2期工事完了                 |
| 昭和49年10月 | 園舎第3期工事完了、翌月に創立20周年の式典を行う |
| 昭和61年3月  | 宗教法人となる                   |
| 平成5年4月   | 学校法人となる                   |
|          | （平成16年4月 創立50周年）          |

呉あそか幼稚園が在る広島県呉市（人口約21万人）は、戦前期新興の軍都として明治以降急速に発展した地方工業都市であり、かつ海軍や関連団体関係者を顧客とする商業都市の面もあり、各地方より人々が集まってくる近代都市生成のモデルのような都市で、中国地方有数の人口を誇る非常に活気のある街であった（戦前の最大人口約40万人、当時の広島市と並ぶ）。戦後は、造船・鉄鋼業を中心とした瀬戸内海有数の臨海工業都市として発展した街であり、海上自衛隊の基地としての側面ももつ街である。園の設置地区である呉市清水地区は、呉市中心部の繁華街にも歩いて行ける距離の場所で、近くには学校や企業の社宅なども多くある住宅地である。

なお参考までに、現在広島県私立幼稚園連盟呉支部の加盟幼稚園は、呉あそか幼稚園を含めて全部で27ある。また、呉市の保育所協議会に加盟している施設（保育所・保育園）は全部で23ある。

## (2) 方法

平成15年9月8日、10月31日、12月12日の計3回にわたり、呉あそか幼稚園へ訪問調査を実施した。1回目の調査では、園に関する所蔵資料と主として保護者向けの印刷物一園だより、各種のお知らせ・案内一の閲覧、コピーと園長と主任を中心に聞き取りを行った。2回目の調査では、前回の調査における補足の聞き取りと、実際の活動の様子を観察した。3回目の調査では、11月に開催された本学会大会での筆者の発表の報告、そこでの質疑応答事項の確認と、新たに若い教職員を中心に聞き取りを行った。これらを基に、まず呉あそか幼稚園の開園以降の活動状況を概観し、次に現在の活動状況を園の中心的な行事に焦点を当て、実践活動の推移・特徴を明らかにし、園の目的や基本方針が如何に実践活動や園の運営に反映されているかを検討し、当園が現在も地域において支持されている理由の一端を考察する。

## III. 結果と考察

### (1) 開園以降の活動状況

まず、表1を基にして開園以降のこれまでの活動状況を概観してみる。呉あそか幼稚園（以下「あそか幼稚園」と略記）は、先述のとおり、昭和29年に地域の強い要請のもとに開園した。園長への聞き取りでは、その背景として、当時この地域の交通量が急速に増えていって、隣接地区の幼稚園に通わせることが困難になってきたから<sup>(7)</sup>とのことである。当然、戦後のベビーブームの影響もあったと推察される。そのため開園当初は、運動会における寺の青年会の協力（昭和29年）や寺の檀家からのヤギの乳の提供（同年）、木の遊具製作への地域住民の協力（昭和31年）など寺の檀家を中心とした地域住民の協力が、この園の運営に大きな役割を果たしてきたことがわかる。

高度成長期の昭和40年代前半から、その後三回にわたる園の増築工事を経て、園の環境が整備された。活動状況も、昭和40年代から60年代初頭にかけて様々な実践活動が実施され、そのほとんどが現在も継続して行われている。例え

ば、各種教室（音楽・体操等）の開講や、工場見学（昭和45年）、もちつき（昭和50年）、作品展（昭和61年）、カレー作り（昭和63年）などの行事が始まった。これらの行事は、基本的には園全体で取り組むものであるが、各種教室については、音楽教室も体操教室も保育時間終了後、希望者のみに行っていて、園全体としての活動ではない。ただし体操については、月に2回専門の講師に指導をお願いして、保育の中に取り入れている。その他の活動については、特に保護者との共同作業の活動に力を入れている<sup>(8)</sup>とのことである。この時期に始まった注目すべき活動としては、家庭訪問（昭和49年）と個人懇談日（昭和58年）がある。通常、幼稚園・保育園においては、不規則な家庭訪問やクラス単位の学級懇談会などが一般的だと思われる<sup>(9)</sup>が、あそか幼稚園ではこれらの活動を年に1回、定期的な行事として確保しており、要求に応じても随時行っているという<sup>(10)</sup>。園児の約半数が転勤族（主に自衛隊・企業・病院等関係者）の子弟<sup>(11)</sup>ということもあり、特に保護者とのコミュニケーションを図る努力をしていることが伺える。なお、あそか幼稚園は園バスを使用しておらず、親の迎え（昭和52年）が始まる前は、教職員が分担してお迎えをしていたそうである<sup>(12)</sup>。

平成に入る頃から、社会見学などの集团的行事以外に検診（平成2年）や安全教室の類（平成11年）の管理的行事的なものが行われるようになった。また市民体育祭（平成元年）や地元の警察主催の行事（平成3年）にも参加するようになった。これら園外主催の行事への参加は、その多くが依頼ではなくこちらが主体として自発的に参加しているとのことである<sup>(13)</sup>。それから平成元年に数珠使用開始とあるが、これは入園時に全員に数珠を渡し、園児たちはそれぞれ自分の引き出し（ロッカー）に入れておき、各教室での朝の仏参で使用し、それ以外では特に使わないとのこと<sup>(14)</sup>で、とりたてて仏教的な指導の道具として使用してはいないようである。また平成9年のリトミック教室開講であるが、体操と同様に特別に講師をお願いして（現在は卒園生が担当）、月に2回クラス単位で、リズム感や表現力を養い感性を育てることを目標に

表1 呉あそか幼稚園の沿革と施設設備、活動状況等の推移

年	沿革と施設設備	活動状況等
昭和29年	開園、オルガンを使用。栄養補給のため、檀家からヤギの乳をもらい、園児に飲ませる。	寺の本堂にて保育。発表会も本堂に畳を敷きつめ、ステージを作り行う。運動会は親しい保育所から道具を借りて行う(寺の青年会の協力あり)。
昭和30年	県より認可を受け、幼稚園連盟に加盟。	研修会に参加、絵画教室を行う(クレパスの指導)。夏の水遊びのため簡易プールを借りる。
昭和31年	2教室完成。保護者と地域住民より木の遊具(ジャングルジム・ブランコ等)を作っていただく。オルガンからピアノになる。	運動会・発表会を近所の小学校にて開催。秋の遠足で芋掘りを始める。
昭和35年	ヤギの乳から牛乳へ。	盆踊り会開催(2日間)。親子でバス遠足。
昭和39年	鉄製ブランコ設置。	
昭和40年		ヤマハ音楽教室開講(保育時間外)。遠足のおやつを園で一緒のものを用意。
昭和41年	制帽決定。	公開保育開催。
昭和42年	園舎第1期工事完了。落成式。	
昭和44年		公開保育開催。PTA 連合会結成大会。
昭和45年	園舎第2期工事完了。新園舎完成。	パン工場見学(年長)。
昭和49年	園舎第3期工事完了。新園舎完成(6教室)。20周年記念式典。	家庭訪問開始。
昭和50年		遠足(親は参加せず)。もちつき始める。
昭和52年		親の迎え開始。
昭和55年	創立25周年、プール設置(室内)。	
昭和58年	絵本(園文庫)貸し出し開始。	個人懇談日開始。
昭和60年	体操ユニフォーム作成。	カワイ体操教室開講。
昭和61年	宗教法人になる。	作品展開始。
昭和63年	日曜参観、カレー作り開始。	
平成元年	数珠使用開始。	絵本会結成(保護者)。市民体育祭初参加。
平成2年		内科・歯科検診開始。自衛隊護衛艦見学。
平成3年	体操ユニフォーム(冬用)完成。	母の会→保護者会、地区委員→クラス委員とする。警察七夕祭りに参加。
平成4年		年少、循環バスに乗車。
平成5年	学校法人になる。	
平成6年	創立40周年。	プラネタリウム・工場見学。保育料引き落としとなる。保護者会の社会見学実施。
平成7年		三大行事(運動会・作品展・発表会)の手伝いを保護者に振り分ける。カワイ造形教室開講。
平成8年	第2第4土曜自由登園とする。	国体への参加。なかよしルーム(居残り保育)開始。消防署見学開始。
平成9年		ひよこランド(未就園児親子対象)開始。お別れクッキングパーティー開始。年長、お別れ親子遠足開始。リトミック教室開講。
平成10年	集金袋扱い開始。	
平成11年		市営バスの「バスマナー教室」に参加。
平成12年		保安大学校出航式に参加(年長)。
平成13年		敬老会に参加(年長)。
平成14年	土曜日全て自由登園とする。	

出典：呉あそか幼稚園主任・西村光恵氏作成の園沿革資料を基に作成

表2 平成15年度の主な行事計画

月	行 事
4	入園式(お釈迦様の誕生日8日に行う)、始業式
5	花祭り(1ヶ月遅れのお釈迦様の誕生日、神応院の行事)、遠足
6	家庭訪問、眼科検診、時計店見学(年長・年中)、歯科検診、お弁当参観、プール開き、プラネタリウム見学(年長)
7	七夕祭り、盆おどり会、終業式
8	夏休み
9	始業式、お月見おだんご作り、消防署見学(年中)
10	運動会、遠足(年中・年少)、カレー作りと食事会(年長)
11	芋掘り遠足(年長)、作品展(絵・制作物)
12	おもちつき(成道会の前日)、成道会(お釈迦様が悟りを開いた日)、参観日、終業式
1	始業式
2	涅槃会(お釈迦様が亡くなった日)、発表会(お遊戯・劇・合唱等)、ひな祭り
3	お別れ遠足(年長)、お別れパーティー、体操参観、終了式(年中・年少)、卒園式(年長)

\*毎月、月末にお誕生会あり、また個人懇談・家庭訪問の日程は上記以外にも随時行う  
出典：呉あそか幼稚園入園案内と聞き取り調査を基に作成

行っているとのことである<sup>(15)</sup>。平成になってからの、特に重要な活動として指摘できることは、子育て支援の一環として他の多くの幼稚園と同様に、なかよしルーム(居残り保育)(平成8年)・ひよこランド(未就園児親子対象)(平成9年)などの保育時間外活動を実施するようになってきたことである。前者は、平日の保育時間終了の午後3時から原則午後5時、遅くとも5時半まで子供を預かる制度で、教職員が交代で1人で担当しているという。利用者は、年度や時期によってかなり異なるとのこと<sup>(16)</sup>で、転勤族が多い地域性と関係しているのかもしれない。後者は、月に2回水曜(水曜日は午前中で保育終了)の午後、園を開放して子育ての悩みや体験などの相談の場にするものである。通常15人~20人が参加しているとのことである<sup>(17)</sup>。

## (2) 現在の活動状況

次に、現在の活動状況を表2の平成15年度の行事計画の中から、あそか幼稚園の中心的な行事である「三大大行事」と称される、「運動会」(10月)、「作品展」(11月)、「発表会」(2月)に焦点を当てて検討する。なお現在まだ年度途中なので、引用の資料等は平成14年度(一部は13年度)のものを用いる。これらの行事に関しては、園の保護者会も積極的に関わっており、年少・年中・年長の各2組の保護者全員が、それぞれ4.5人~8.9人ずつ行事の分担者として各担当委員会を設置し、各行事の準備と片づけ、園児へのお土産の用意などを行っている。保護者の全員が、必ず園の三大大行事のどれかに関わっているというスタンスが最大の特徴であるといえる。

先ず運動会であるが、平成14年度のプログラムは以下のようなものである。

入場・開会のことば・たのしいうんどうかい

1. よいこの体操1 小さな世界(体操) - 全園児
  2. がんばれ!!あそかしょうぼうたい(個人) - 一年中児
  3. Sisi Ciao(遊技) - 一年長児と保護者
  4. 力くらべ(個人) - 一年少児
  5. 組体操(体操) - 一年中, 年長児
  6. サナギのさもち(遊技) - 一年少児
  7. キックだ!サッカー(団体) - 一年中児と保護者
  8. タイヤにダッシュ!(団体) - 一年中児と保護者
  9. おさかな天国(遊技) - 一年中児
  10. いっしょにはこうね!!(団体) - 一年少児と保護者
  11. チームワークでいっとうしょう(団体) - 一年長児
  12. はじめてのおつかい(団体) - 全園児
  13. がんばれ!(遊技) - 一年長児
  14. WAになっておどろう(フォークダンス) - 一年長児と保護者
- 入場・みんなのようちえん・閉会のことば

個人競技, 団体競技(組対抗), 体操, 遊技の4種目と保護者が行うフォークダンスの計5種目からなる。種目数と対象の子供の関係も比較的バランスがとれており, 保護者との共同の種目もすべての子供が行うように配慮されている。また保護者が参加する種目自体も全体の1/3程を占めている。運動会の予行演習は, 一週間前に約3時間かけて行っているが, 園日より, 行事のお知らせ等の印刷物を見ると, 「決まりを守るように」「最後まで一生懸命頑張る態度」という言葉が何度も出てきており, これをかなり意識して指導していることが伺える。このことは, 園の基本方針の最初に示してある「基本的生活習慣が確立された子供の育成」に対応しており, 聞き取り調査でも, 実践活動においてもっとも重視している点として「子どもに, 基礎的基本的な生活習慣を身につけさせる」「元

気で明るく, 一生懸命頑張る子どもに育てる」の二点を挙げており<sup>(18)</sup>, 合致する。

次に作品展であるが, 作品展とは園内で行う園児の絵や制作物等の展覧会のことで, 同時にゲームコーナーと飲食コーナー(ジュース・ポップコーン等)のバザーも設けている。出品する園児の作品は, 日々の園での活動によって制作されるものである。通常の作品の展覧会, バザーと異なると思われるのは, 保護者があるテーマに沿って共同で作成したものを園児にお土産として配ることである。平成13年度は「不思議な国のアリス」に関する冠を作成している。また作品展に対する当日の意見や感想も大変重視しており, 翌年のディスプレイや保護者のお土産作成に活かしているという<sup>(19)</sup>。ここでも園と保護者との密な関係が伺える。

最後に発表会は, お遊戯・劇・合唱・合奏等の合同発表を行うものである。例年2月の土曜日に, 近くの小学校の体育館を借りて行っており, 教職員が舞台係・会場係・進行係など6つの係に分かれて, 園児への服装規定や持ち物の指示, 保護者へのビデオカメラ撮影についての指示なども細かく定めており, かなり本格的な発表会であると考えられる。この発表会は, 3月の卒園シーズン行事前の最後の通常行事として位置づけられているらしく, その年度の保育指導の集大成であり, かつ園外の施設を利用することで, 地域への公開の意味合いも他の行事より強いようである。聞き取りでは, 普段の実践活動と同様に, これらのイベント的な行事をとおしても「きちんとしたしつけを身につけさせたい」との意図があるとのことである<sup>(20)</sup>。

これら三大行事を検討することで, あそか幼稚園が通常の日々活動と同様に園の中心的な行事においても, きちんとしたしつけと指導を重視し, 保護者と積極的にコミュニケーションを図る努力をしていることが改めて確認できた。このような園の活動方針については, 若い教職員も賛同しているようである。例えば, 若い教職員への行いたい保育活動に関する聞き取りでも「パソコン・英会話等は今のところは必要ないと思う。先ずは, 今やっている日々の活動を大事にしたい。特に園児の人数が多いからなか

なか難しいが、年長・年中・年少のタテ割りの関係を指導したい<sup>(21)</sup>や、「事務処理やポスター・カット等でパソコンを使うのは能率的で良いと思うが、直接的な園児への指導においてパソコンを用いたり、英語等を教えたりすることは詰め込みになるので反対である」<sup>(22)</sup>等の指摘があり、特別な活動を行うのではなく、日々の基本的な活動をとおしてしつけを身につけさせるという意識が、園長・主任はもとより、若い教職員にも強いということが伺える。

なお本稿では取り上げなかったが、この他に特徴的な行事としては仏教系の幼稚園ならではの、5月の花祭り（お釈迦様の誕生日）、12月の成道会（お釈迦様が悟りを開いた日）、2月の涅槃会（お釈迦様が亡くなった日）がある。どれも基本的には神応院の行事であり、あそか幼稚園の行事ではないが、バザーや演奏会、人形劇等のイベントも同時に行われ、一種のお楽しみ会的な側面も持っているようである。また年に10回程度の仏教講話会も行われているという<sup>(23)</sup>。

#### IV. まとめ

以上、園の所蔵資料と保護者向けの印刷物の検討、園長を含む教職員への聞き取りを基に、概略的に呉あそか幼稚園の開園以降の活動状況を概観し、現在の活動状況を園の三大大行事を中心に、実践活動の推移・特徴を明らかにした。そして、園の目的や基本方針が如何に実践活動や園の運営に反映されているかを検討してきた。その結果、比較的オーソドックスな実践活動を行ってきた呉あそか幼稚園が現在も地域において支持されている理由の一端として、以下の三点が推察できる。

第一に、開園の経緯から地域密着型の幼稚園として運営されており、転勤族が多い地区であることから特に地域・保護者とコミュニケーションを取ろうと努力してきたこと。

第二に、第一に関連して、各種行事にすべての保護者を積極的に参加させることを意図してきて、そのための地道な努力を行ってきたこと。

第三に、特別な教育を行わず、仏教の教えに

従って、基本的なしつけを身につけさせることに徹したこと。

これらの中で、第一と第二における園の努力としては、具体的には保護者向けの印刷物の多さが挙げられる。通常の園日より、各種行事のお知らせ以外にも、その行事の打ち合わせに関するもの等多数あり、他の園を経験して現在勤務している教職員の方の中にも、この園の印刷物はかなり多いのでは、との指摘があった<sup>(24)</sup>。また地域との密接な関係は、地域の子供をその地域で育てるために、呉市の幼稚園連盟で旧市内は園児のバスでの送迎は止めるという取り決めを、あそか幼稚園が遵守していることも要因の一つであると考えられる。第三については、聞き取りにおいて、園長・主任が共に「うちはオーソドックスな教育をやっている、特別なことは何もしていない。特徴のないのが特徴である」と答えており<sup>(25)</sup>、一部のリトミックや、保育時間外の希望者を対象とした音楽等の教室開講以外に目新しい保育をほとんど行っていないことから伺える。

本稿では、呉あそか幼稚園の開園以降の活動状況の推移・特徴と現在の園の三大大行事を中心に、実践活動の特徴の概略的な検討に終始した。今後の課題としては、園における日々の実践活動について、もっと詳細な検討を行う必要があるだろう。

#### 注

- (1) 湯川嘉津美「歴史からみた日本の幼児教育」、森楸編『教職科学講座 10 幼児教育学』福村出版 1992、41-42頁。
- (2) 既に60年代の半ばから、一部の幼稚園では有名校への入学のために、知能テストの練習、文字や数を教えるためのドリル、水道方式による算数教育などを行っていたという（山本 1965、10-12頁）。
- (3) 「リビング ひがしひろしま」平成15年9月27日号、平成16年度東広島市私立幼稚園園児募集の広告より。
- (4) 近くに海上自衛隊呉基地の官舎と企業の社宅がいくつかある。

- (5) 例えば、月刊くれえばん2001年11月号「呉観察日記」68-69頁。
- (6) 例えば、日本保育学会の学会誌『保育学研究』第40巻第1号(2002)に、保育を研究している大学・短大・専門学校・研究所に照会し、その回答に基づいて収録した平成13年度における当該年度の紀要文献の内容分類を見ると、「保育史」の欄で日本を対象とした研究は8つあるが、戦後以降を中心的に検討した研究は皆無である。
- (7) 平成15年9月8日、園長への聞き取りより。
- (8) 平成15年9月8日、主任への聞き取りより。
- (9) 平岩(2002)は、中京女子大学の1999、2000年度における児童学科2年生に対して、学生たちが幼稚園・保育園において経験した行事の一覧を挙げているが、そこには定期的な家庭訪問・個人相談の記載は無い。
- (10) 平成15年10月31日、主任への聞き取りより。
- (11) 平成15年9月8日、園長・主任への聞き取りより。
- (12) 平成15年10月31日、主任への聞き取りより。
- (13) 平成15年10月31日、園長への聞き取りより。
- (14) 平成15年12月12日、園長・主任への聞き取りより。
- (15) 平成15年10月31日、主任への聞き取りより。
- (16) 同上
- (17) 同上
- (18) 平成15年9月8日、園長・主任への聞き取りより。
- (19) 平成15年10月31日、主任への聞き取りより。
- (20) 平成15年9月8日、園長・主任への聞き取りより。
- (21) 平成15年12月12日、教諭A(1年目)への聞き取りより。
- (22) 平成15年12月12日、教諭B(2年目、他の園で5年勤務)への聞き取りより。
- (23) 前掲書 2001, 69頁, 平成15年9月8日, 園長・主任への聞き取りより。
- (24) 平成15年10月31日, 教諭B(2年目, 他の園で5年勤務)への聞き取りより。
- (25) 平成15年9月8日, 園長・主任への聞き取りより。

### 主要参考文献・資料

- (1) 上笙一郎・山崎朋子『日本の幼稚園』筑摩書房, 1994。
- (2) 呉あそか幼稚園所蔵資料・配布印刷物。
- (3) 宍戸健夫『保育の森—子育ての歴史を訪ねて』あゆみ出版, 1994。
- (4) 日本保育学会編『郷土にみられる保育の歩み—保育学年報一九七六年版—』フレーベル館, 1977。
- (5) 島中徳子・大戸美也子共編『今日の家庭教育—家庭・学校(幼稚園・保育園)・地域社会の連携を求めて—』建帛社, 1983。
- (6) 平岩定法「日本における「保育行事」を考える—「クリスマス会」の持つ意味」『中京女子大学研究紀要』第36号, 2002, 57-66頁。
- (7) 森上史朗編『幼児教育への招待—いま子どもと保育が面白い—』ミネルヴァ書房, 1998。
- (8) 森梯編『教職科学講座 10 幼児教育学』福村出版, 1992。
- (9) 山本真市『すばらしい幼稚園—よい保育の探求』フレーベル館, 1965。

### 《付記》

資料の引用に際しては、旧字体の一部は新字体に改め、句読点や濁点を付した。また明らかな誤植、間違いと判断できるものは訂正した。本研究に関しては、呉あそか幼稚園の園長先生はじめ園の先生方に大変お世話になった。特に卒園生でもある主任の西村光恵先生には、三度の訪問調査及び書簡で貴重なご意見を伺った。記して謝意を表したい。

(広島大学文書館設立準備室(非))